



熱気あふれる市民の祭典

松本ほんぼんぼん



平成29年9月1日現在	
世帯数	: 857戸(-6)
人口	: 1559人(-15)
男	: 750人(-14)
女	: 809人(-1)

市民の楽しめる行事を創ろうというところから始まった松本ほんぼん、松本商工会議所、商店街連盟、大型店等が主体となり、松本ほんぼん実行委員会が結成され、約80人で役割を分担して準備し、そこに町会、安協等の協力を得て実施している。

基本は、踊り18分、休憩10分を1クールと呼び、7クールおこなう。また、終了時間午後9時は厳守するというのが鉄則である。

8月5日午後5時50分松本ほんぼんが始まり、最初はまだ薄明るく、通りいっばいに揃った踊り手、さあこれからだときり切っている様子であった。

子どもたちも元気に出発した。踊り手の連はそれぞれにハッピー、うちわ等工夫をし、水分補給等の荷物を運ぶ台車にもそれぞれの工夫が見て取れた。

元気に出発した若者の連では動きが大きく見栄えはよかった。しかし終盤になると疲れがみえみえであった。それに対し小中学校の連はあまり変化がなく元気良く踊りを続けていた。第一地区からも多くの人が参加した。

本年の最優秀賞は、松本自衛隊の連と決まった。さすが自衛隊で動きがきびきびし、隊列もきつちりして疲れ知らずのクールな踊りと感じた。優秀賞が2連、グッドダンス賞が3連、グッドマナー賞が3連、特別賞として子ども小中学生の16連が受賞した。

子どもたちの連は、寒色系の服装が多く、最初の頃はかわいいうる子という感じであったが、暗くなるにつれて、動きが見えにくくなり残念に思えた。

本年はインターネットに不穏な書き込みがあったため、幼児や小学生主体の16連(約1、0

00人)が参加を見送り、そのため参加連は245連、約2万2500人となった。踊りの順路は約6・4kmとなっていたことから連の間が、所どころで開き、長いところでは50m以上にも及んだ。それと共に観客も途切れてしまい、不穏な書き込みによる影響の大きさをひしひしと感じた。

全体的に回ってみて、一部に薄暗い部分があり、警備上、死角とならないよう配慮が必要でなかったかと考える。また明るいとところは、観客も集まり賑やかであった。ただ発電用の原動機排ガス臭が気になった。

大勢集まる行事は、過去にもたくさんトラブルがあったと聞いている。それに対し役員と町会が一丸となって対策してきた結果、43回を迎えられることとなったのではあるまいか。



Presented by 視聴覚委員会



まちかどフォト

「ぼたんの花よ」
ほんぼんの花かざりは福祉ひろば利用者さんのお手製です。



地区の文化財

「おかんのんさまのお祭り」
毎年8月17日に博労町の十王堂跡で行われています。



第一地区の 老舗をたずねて

第四十四回：

(株) 萬藤 (国府町)

(株) 萬藤 創業 1848 (嘉永元) 年。創業当時から、一貫して「糸」を主力商品として扱い続けてきた。

創業者は初代浅田藤一郎さん。中町二丁目で商人相手の旅籠を営む傍ら、近隣で作られた麻糸を糸魚川などで売

り、行った先で様々な品物を仕入れて帰ってくるという形態で商売をしており、物流の役割も担っていた。人々は、なんでも屋の意味からか「萬や藤べえ」と呼んでおり、そこから「萬藤」の名が付いたという。



昭和40年代 中町通り
写真左「ベビー用品の店」が(株) 萬藤

二代目浅田藤一郎さんは、なかなかの商人で、現在の八十二銀行の前身である信州銀行の立ち上げに関わって銀行の仕事をしたり、アメリカから輸入された外車を売ったりした。ただ、外車販売は、まだ時期尚早だったようで、あまり売れなかったという。明治の終わり頃から、蔵の建設に取り掛かり、大正初期に出来上がった。

三代目浅田藤一郎さんの代には、先代のころから扱った木綿糸や絹糸に加え、昭和初期には布団綿を販売、注文を受けて布団も作った。また、この頃から現在の主力商品である毛糸を扱うようになった。戦争を経て、店を守り続けた。

四代目の浅田州宏さんは、妻の百世さんと二人三脚で毛糸と共にベビー用品を取り扱った。昭和52年には、再開発された松本駅前に出店を決め、国府町の現在の店舗の場所に自社ビルを建設した。

戦争の傷も癒え、高度成長に沸く当時は、空前の編み物ブームだった。趣味と実益を兼ねたゆとりある生活

の象徴のようなものだった。その後、ベビー用品の扱いはやめ、毛糸に特化した。仕入れる糸は端から売れた。1日百人を超えるお客さんの対応に追われた。商売も編み物もしたことのなかった百世さんは、懸命に編み物を覚え、目の回るような忙しさを乗り切った。商売は、面白いように順調だった。

しかし、景気の低迷とライフスタイルの変遷により、徐々に売り上げは減り始めた。かつて市内に7、8軒あった毛糸屋は、たった1軒になつてしまった。

先祖からは「糸屋は細く長

く」と言われ、それを守ってきた。マンションブームもあり、店の存続について考えたが、5代目の洋文さんは、店を継ぐことを決断。先ごろバトンを渡した。



現在の店舗 (国府町)

**平成29年度
第一地区公民館
委員紹介**
順不同・敬称略

□ 運営委員

- 石塚 栄一
- 羽山 義輝
- 犬飼 陽一
- 田内 正一
- 分部 由里
- 真島 富男
- 大谷 美紀子
- 渋谷 隆也
- 藤澤 淳次
- 平林 明子

□ 館報委員

- 田内 正一
- 横沢 敏
- 岩原 正勲
- 山内 敦子
- 伊藤 善立
- 白井 充子
- 山口 是るな
- 山輪 貴念夫

□ 視聴覚委員

- 分部 由里
- 伊藤 善立
- 長崎 俊夫
- 有江 一記
- 駒形 勝子
- 永井 昭
- 宮島 幹治
- 佐久間 まゆみ

□ 文化委員

- 犬飼 陽一
- 神木 笑子
- 内藤 英昭
- 桐原 崇光
- 高嶋 敏行
- 毛利 達生
- 花村 麗子
- 飯森 福太郎
- 太田 千代子

□ 地区公民館職員

- 阿部 康之助
- 金井 健志
- 北平 知子
- 北川 美奈
- 佐久間 まゆみ

電車通り

ビアフェス信州の中止に端を発した松本城公園での飲酒に関する「品格問題」は、教育委員会が行政の無謬性や面子にこだわることなく、早期の事態収拾に成功したように思われる。些細な行政の不適切な対応でも指摘して、鬼の首を取ったかのようには喜ぶ有識者・評論家にとつては格好の標的となったが、変にこじらせることなく、大炎上を免れた。ただ、松本城でのイベント時の酔っぱらいに眉をひそめる市民や観光客が多数いることもまた事実である。花時計公園での飲食イベントも同様で、たとえば、噴水での水遊びを夏休みの日課にしていた子どもたちにとつては残念な2週間であった。いずれのイベントも松本市の魅力が満喫できる地域価値向上につながる成功例であり、私自身毎回楽しく参加しているだけに、多様な市民の合意形成の難しさを改めて実感した。

賛否両論といえ、松くい虫の感染拡大に対する薬剤散布問題も袋小路に入りそうだ。子どもも健康被害への心配はもつともなことなのだが、こと松本の「松」が枯れるというシンボリックな問題だけに対策は急がれる。